

令和3年7月

魚津市定例記者会見



日時：令和3年7月1日(木) 午後1時30分～午後2時05分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、NHK、
KNB、NICE-TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、民生部長、健康センター所長、情報広報課長

1. 市長からの発表事項

(1) 新型コロナウイルスワクチン接種について

- ・本日7月1日、16歳から59歳の方の接種券約1万9000人分を一斉発送する。職域接種など、多様な接種機会に対応するために幅広い年代に接種券を送付することにした。そして12歳から15歳の主に中学生の年代については、8月初めからの予約に対応できるよう、7月の下旬に接種券を発送する予定で準備をしている。
- ・次に、ワクチンの接種スケジュールについて。早い者勝ち、早い者順になって混乱しても困るので、年齢区分ごとに予約の受け付けを開始していく。

○55～59歳は、7月7日から予約開始、7月10日から接種開始。

○50～54歳は、7月中旬に予約開始、8月中旬から接種開始。

○12～18歳は、8月上旬の接種開始をめどに現在調整中。

○19～49歳は、スケジュール未定。

現在ワクチンの供給状況がかなりスローダウンしているため、状況をしっかり把握して順次案内をしていきたい。なお、小中学校の教職員は、7月11日と8月8日に、県特設会場でワクチンを接種予定。保育士については、新川地区の2市2町で連携し、黒部市に集団接種会場を設けて7月下旬から、順次接種の予定。

- ・この機会に、もう少しワクチンの状況を説明したい。まずは6月末までのワクチンの接種状況について。1回目の接種を終えた件数は、

○65歳以上の方で、10,840件、接種率74.9%

○64歳以下の方で 1,795件、合わせて12,635件となっている。

2回目の接種を終えた件数は、

○65歳以上の方で、5,689件、接種率39.3%

○64歳以下の方で 861件、合わせて6,550件となっている。

1回目と2回目を合わせて、全体で19,185件のワクチン接種が終了している。ちなみにV-SYS（国のワクチン接種円滑化システム）の数字では、市外在住者が魚津市内で接種した数字も入っているため、20,018件となり約1000件ほど多くなっている。実際のワクチンの使用量は、このV-SYSデータが参考になる。

個別接種がスタートしてからの1週間ごとの接種数は、

○5/17～5/23は、個別接種のみ1578回

○5/24～5/30は、個別接種のみ1562回。

○5/31～6/6は、個別接種が1793回、集団接種が285回、合わせて2078回。

○6/7～6/13は、個別接種が2496回、集団接種が567回、合わせて3063回。

○6/14～6/20は、個別接種が2295回、集団接種が760回、合わせて3055回。

○6/21～6/27は、個別接種が2406回、集団接種が865回、合わせて3271回。

となっている。

直近の状況では、1週間3000回が、魚津市の接種ペースとなっている。

- ・ 今後については、集団接種のペースアップについて検討中。そして、今後の見通しについては、仮に今後もこの1週間3000回ペースで接種していければ、7月は大体1万5000回の接種となり、6月末までに約2万回接種できているので、累計で7月中に3万5000回。8月はお盆などがあるので、少し接種ペースがダウンして9000回ぐらいの接種となり、8月末で累計4万4000回。9月はフル回転した場合1万5000回となり、累計5万9000回となる。そして、市民のうち接種を希望する割合については、今までの状況から推測すると、おそらく75～80%ぐらいと思われる。そうすると、3万1000人ぐらいの市民にワクチンを打つこととなるので、回数では6万回程となる。先ほどの週3000のペースで追っかけていく、単純にいけば、おそらく10月中には、接種希望の市民には打ち終わることになると思う。しかし、ここで問題がある。昨日から今日にかけてのニュース報道のとおり、ワクチンの供給がスローダウンしている。そのため、先ほどの計画通りに進むかどうかは、国からのワクチン供給にかかっている。魚津市では現在7月いっぱいまでのワクチンは確保している。福祉の方、市医師会にも全面的に協力いただき頑張っているため、国には、市町村の接種が円滑に進むように、ワクチンの配給をお願いしたい。

(2) 内閣府 関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築にむけた調査・検討業務を行います

- ・ 内閣府の関係人口創出拡大に向けた、モデル事業に取り組むことになった。令和3年度の関係人口創出策大のための、中間支援組織提案型モデル事業として、シーズ総合政策研究所が展開する事業に参画をする。モデル事業の採択団体は、島根県松江市の株式会社シーズ総合政策研究所。実施予定地域は、日本海側に面した魚津市、島根県浜田市、同県江津市の3つの市。既に令和2年度に関係人口創

出事業が先行して展開されていたが、そこに令和3年度から魚津市も加わる形になった。

- ・令和3年2月14日に開催された魚津市まちづくりフォーラム2021で基調講演の講師をしていただいた指出氏から推薦され、関係人口づくりに取り組んで行こうということになった。具体的な活動については、様々な価値感を持った、多様な地域、人々と関係を作っていくために「関係案内人」の育成などを行う。

(3) UO! GOODY, UO! LIFE. の開催について

- ・7月25日の日曜日に、魚津の楽しいもの、良いもの、美味しいもの、これらが集まるUO! GOODY, UO! LIFE. というイベントの開催が決まった。場所はサンプラザの駐車場。出展者は市内で事業を営む事業主の方々。50店舗ほど入れられるが、現在のところは30店舗余りとのこと。しかし、あまり無理して集める必要もないと考えている。意欲があって参加してもらえる事業者に加わって欲しい。そして、コロナ禍でのイベントになるため、飲食ブースは設けない。基本的にテイクアウトを中心とした、お買い物イベントと考えてほしい。ぜひコロナ禍での新しい賑わいのあり方、そういったものを提案していきたい。なお、コロナの感染状況によっては中止にする予定。

(4) つくるUOZUプロジェクト（新分野産業育成事業）イベント開催のお知らせです！

- ・7月と8月に展開する「つくるUOZUプロジェクト」のラインナップを紹介したい。まず、7月22日、UOZU ゲームクリエイト体験教室ということで、中学生、高校生を対象にした、オンラインでの3Dキャラクターの講習を実施する予定。場所は埋没林博物館で、定員は10名。まだ枠に余裕があるので募集をしていきたい。
- ・2点目は、先ほどの「UO!GOODY, UO!LIFE.」につくるUOZUプロジェクトとして出展するもの。プロジェクトの紹介動画の放映や、プロジェクトで制作したゲームの試遊機などを設置して、皆さんに活動をお知らせしたい。
- ・3点目の方は、「UOZU ゲームジャム Hot!Summer!!」ということで、こちらはすでに活動しているクリエイター向けの技術講習。8月1日～9日の9日間にわたって、オンラインゲームの開発イベントを行う。ZOOMを用いたオンライン開催になるが、25名ほどの参加を見込んでいる。

- (5) 魚津市男女共同参画推進員による「オレ流家事育児フォトコンテスト」を開催します。
- ・家事や育児を楽しむ男性の写真を募集したい。募集期限は8月17日まで。内容は、家事育児を楽しんでいる男性の写真。1人3点まで応募可能となっている。応募方法は、所定の事項を添えていただき、メールで送ってもらう格好となる。最優秀賞には副賞として1万円分のギフト券を、優秀賞2点には、3000円分のギフト券を渡したい。結果は8月20日に、市ホームページで公表する。また、8月20日～27日までアップルヒルで作品の展示を予定している。
- (6) サテライトオフィスの誘致について
- ・サテライトオフィスの設置促進事業助成金運用の第1号のお知らせとなる。企業名はトーヨー技研株式会社、事業内容は金属表面処理装置の設計製造、事務所が新しく設けられた場所は魚津市新金屋1丁目11番7号。6月28日からすでに業務をスタートしている。
 - ・開設時にかかる費用の応援として100万円、運営費につきましては、月額10万円の24ヶ月分を予定している。トーヨー技研株式会社は県内の金属関係の企業との取引が多い企業で、本社は東京の台東区にあり、魚津市のサテライトオフィスは富山支店という位置付けになる。
- (7) 魚津の農林水産業 体験・応援プロジェクト7月に開催する「親子体験会」はこちら
- ・春先から実施しているプロジェクトを7月も実施する。7月は野菜と、田んぼの二つのコースで、親子体験会を展開する。野菜の親子体験会は、7月3日（土）、川縁にある「ゆかり営農組合」で、畑づくりや植え付け体験など行う。田んぼの方は、7月17日（土）にバスに乗って米づくりと、周辺環境について学ぶ。いろんな問題について、子どもたちにもわかりやすく伝えたい。水循環資産とか、鳥獣対策施設等を見学して、田んぼづくりの苦労を勉強していく。
- (8) プレミアム付ミラペイ2次申込みの募集を開始します。
- ・6月の1日～11日まで、電子地域通貨ミラペイの申込みを受け付けたが、上限に達しなかったため、7月1日から15日まで二次募集を行うことになった。募集枠は約7000万円分、申し込み単位とプレミアム率は初回と同じ。参考までに一次募集の状況は、申込人数は4600人余り、申込金額が1億2800万円なので、2億円の枠に対して、あと7000万円ほど残っている。取扱登録店舗は6月25日現在161店となっている。今後も多くの事業者に参加してもらうよう呼びかけ、市民にとってこの電子地域通貨が利用しやすくなり、地域にお金が回るようにしたいと思っている。

2. 質疑応答の内容

「サテライトオフィス」について

《記者からの質問》

今回サテライトオフィスを設置した企業は県内に取引先があるのか。コロナ禍で移動が難しい中でサテライトオフィスを持つことはこの企業にもメリットがあったのか。サテライトオフィスはそこで働く従業員の働き方に重点を置いているとのことだが、何人ぐらいの方が魚津に居住されるのか。人口増への期待や居住支援などは考えているか。そして今後も誘致は進めていくのか。あと、村木小のトライアルオフィスは関係あるのか。

《回答》（市長）

今回、サテライトオフィスを設置してくれた企業は、県東部に主要取引先を持っている。やはり東京に事業所があるだけではなかなか、富山県の企業との取引が難しいこともあり、かねてから県内に拠点を設けることを考えておられたようだ。取引先企業の場所から、立地的にも魚津辺りが良いということで、ここになったと思われる。

昨今の情勢では、大きな企業を誘致することは難しく、また現実的でないと思っている。今回も市内中心部にある空き物件をオフィスに活用するという形で来ていただいた。まずはそういった空き物件の有効活用に期待するのが一つ。それから、雇用の増加については、今回事務所に3～4人勤務予定で、そのうちの2人ぐらいは市外から来られるとのこと。その方の住む場所も斡旋して欲しいという話もあったので、人口増にも寄与すると思っている。

この事業は市からだけでなく県からも補助金が出ている。今後もこのサテライトオフィスをもっと展開していきたい。

なお、村木小学校のトライアルオフィスは企業に試してもらうために設置してあるもので、今回の助成金とは関係は無い。

「内閣府の関係人口創出拡大に向けた、モデル事業」について

《記者からの質問》

魚津市で活躍する地域プレーヤーとは、どういう方々なのか。そして、この場合ダイバーシティとはどのような意味を持つのか。また、地域案内人とは魚津の魅力を外に向かって発信できる方のことなのか。そして、具体的に実施が決まっている事業はあるのか。

《回答》（市長）

魚津市で活躍する地域プレーヤーとは、2月のまちづくりフォーラムに出演してもらった方言えば、藍染めを行っている女性、あるいは、Uターンをして商店街に出店している男性など。その他にも、それぞれのライフワークというかテーマを持って、

活動しておられる地域人材がいる。そういった人たちが、魚津市の中で関係を作っていくことも重要であり、魚津市以外の方々と新しい関係を作って、交流を活発化させることも重要。その中で、新しく地域を発展させる新たな方向性が出てきたりすることがあるため、どんどん進めていくべきだというのが、フォーラムの内容だった。指出編集長からは、せつかく魚津にもそういった魅力のある人材がいるので、他の地域の方々との接点を多くすべきとの話があった。今回の事業はこれを具体的に展開していくためのものであると理解してほしい。

ダイバーシティについてはどこまで深い意味合いがあるかわからないが、多様性ということなので、いろんな価値がある中で、多様な人を呼び込もうという意味だと思っている。魚津を発信というよりも、魚津を訪れたり興味のある人を引き込む際に、この地域の生活・文化・人との関わりなどをコーディネートできる人、そんなイメージかと思います。現在市役所には移住コンサルの方がおられるが、1人だけでは駄目なので、そういった役割を担える多くの方を人材育成できればと思う。

具体的な事業については、地域案内人の育成講座を開催するところまでは決まっているが、それ以外はこれから。

「ミラペイの追加募集」について

《記者からの質問》

追加募集は、前回上限まで応募した人でも再度応募できるのか。また、登録店についてはまだ増やす余地があるのではないか。

《回答》（市長）

応募の申込みが上限をオーバーするような場合は抽選などの調整を行うが、現状は余裕があるので、制限を設けずに募集することにした。

登録店の数についてはおっしゃる通りだと思う。利用者サイドからすると、利用できる店舗をもっと増やしてほしいと思うので、それはやっていきたい。一方で、事業者サイドからは、既にキャッシュレスサービスを導入しているので、いくつものキャッシュレスの決済方法が複走すると、オペレーション的に厳しいという意見や、最初は30%のプレミアムがあるけれど、それが無くなったら魅力がないのでは、という声もある。

今はコロナ対策で国の交付金を使って実施しているが、その後どうするかについては現在検討をしている最中。地域でお金をまわすことが目的なので、多くの事業者に参加してもらえる仕組みを、随時付加する必要があると考えている。制度拡充などについて、走りながら考えていこうと思っている。利用者と事業者の両方のメリットを追いかけていきたい。

《記者からの質問》

例えば、今コンビニでは、ほぼ全てがキャッシュレス（非接触型）決済を導入しており、交通系カードをはじめ多くのカード類が使えるが、このミラペイ導入の場合は、

専用の読み取り機が必要なのか。もし、必要ないのならオペレーション的に難しいという理由は何か。

《回答》（市長）

専用の読み取り機は必要ない。しかし、ミラペイの支払いを行った場合は、POS システム等の管理データに読み込まれないので、別にシステムへの登録作業が必要になる。そういう意味で2重の作業となり、躊躇するところもあると推測される。特に全国チェーンの店や量販店などがそうだと思う。

もちろんそういった大型店でも使えるようになればよいが、一方で街中にある小さなお店とか、今までキャッシュレス決済などを導入していないところにも使ってもらい、体験してもらって、便利さを知ってもらうことも目指している。

「ワクチン接種」について

《記者からの質問》

ワクチン接種について、65歳以上の方の2回目接種の終了時期の目途について教えてほしい。そして、今回のワクチン接種についての市民からの声には、どのようなものが挙がっているか。また、これまでの魚津市のワクチン接種状況について市長はどう評価しているか。

《回答》（市長）

65歳以上の方の2回目接種の終了時期の目途については、6月末時点で、3～4割の方が2回目接種を打ち終えている。おそらく、8月ぐらいには打ち終わると予想している。

市民からの声については、一般の市民の方々からはもっと早くとか、そういう声はあまり入っていないが、例えば飲食店などの事業者からは、できるだけ早く打てないかという声は聞いている。そして、接種のペースについては、計画通り進んでおり、トラブルも無く順調だと思っている。

これは市がうまくやっているとよりも医師会の先生方が協力的だったためと思っている。1回目の接種、約1万回のうち、81%が、市内の診療機関（個別接種）で打っている。残りの19%が集団接種なので、8割以上の方が、かかりつけ医で打っている。ここが上手く機能していると思っているが、聞こえてくるのは、そろそろ医師の方々も疲れてきたとのこと。そうなると、今までのペースで打ち続けられるかが問題になる。個別接種のペースが落ちるようであれば、集団接種でカバーする必要がある。このことについて検討しているのが今の状況である。

《記者からの質問》

魚津市以外のところで聞いた話だが、予約ができないので諦めた人がおられるとのこと。そういった方への対策など考えているか。

《回答》（市長）

今はそこまでやる余裕は無いが、7月、8月と進んでいくと、接種状況がかなり正確に把握できると思われるので、まだ接種してない方に対する呼びかけなどのもう一段階の対策を考えることも必要だと思っている。

《記者からの質問》

市長もワクチンを接種されるそうだが、何か思いとかあるか。

《回答》（市長）

本日ここに、接種券を用意している。私の場合は年齢が63歳なので、市のカテゴリー区分では、6月21日にこの接種券が発送された。到着後LINEで接種予約を行った。時間は1分間もかからずに予約が終わった。今日7月1日の空いていた枠、16時からの予約を入れた。

色々な考えや不安のある方もおられるが、自分自身を守るだけでなく、他の方を守るという意味でも、1人でも多くの方に、ワクチン接種を受けてほしいと思っている。市としては、決してスピード競争ではなく、少しでも安心して円滑に打てるように接種計画を立てている。国には、ワクチン供給の円滑な提供に頑張してほしいと思っている。